

製本のススメ

Vol. 62

三寒四温の毎日ですね、花粉症の方々には辛い季節となりました。毎年の事ですが、ホント厳しいですね～。最近では良薬もでていますが、うっかり飲むと眠気が来ちゃう物もあるので、注意がいきますね。

今回から**基本**の話し*2回目*

今回は印刷予備枚数の決め方についてお話ししましょう。最近『予備刷本』が皆無という仕事も発生していますので、是非ともこの加工予備枚数の確保はお願いしたいところですよ。

予備枚数は製本工数や部数によっても差が出てしましますが、並製本も上製本もほぼ同様で【当社では3%～10%】を目安にしています。しかし、小部数の場合では、パーセントでは出しづらいのが悩みどころですね。例えば100冊の注文で、予備がそれぞれの台で10枚では、作業中の不良や機械のセッティングでなくなってしまいます。製本は印刷と比較すると工程数が多く、その都度調整作業が行われる為、各工程での使用予備枚数は少なくとも、累積すればそれなりにまとまった枚数になってしまうわけです。

では、どんな加工がある場合に予備枚数が多く必要なのか幾つか下記にあげましたので参考にしてください。

- *貼込みが多い物
- *薄く腰の無い用紙
- *仕上がりが寸法が規格外の物
- *折り丁（16頁折り）の台数が12台を超える物
- *分断作業が必要な物（何回かに分けて作る場合）
- *製本から後に加工がある物（パッケージやCD等の綴じ込みなど）
- *員数外の見本が実数の3%を超える物
- *絵柄の見当精度がシビアな物
- *キズや汚れの出やすい物
- *店名などの振り分けがある物

上記以外に見返しや扉など印刷しない物も同時に見込んでおく必要があります。ちなみに一冊作るのでも、1冊分は予備をつけてほしい。。。つまり100%の予備！？



Teabreak

卒業や入学・入社と春は身支度も大切ですね。まずはサッパリとした髪型からですが、ところで床屋さんの看板でクルクル回っているアレはいったい何というか知ってますか？色は動脈・静脈・包帯とけっこう知られているようですがあの看板・・・あれは【サインポール】というのが本名なのです。

by (株) 井関製本